

世界が 懸念していること

2024年2月



GAME CHANGERS



世界が懸念していること

イプソスが毎月実施している「世界が懸念していること調査(世界が懸念していること)」では、世界29カ国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

各国および各懸念事項の調査結果の詳細は、www.ipsos.comでもご覧いただけます。

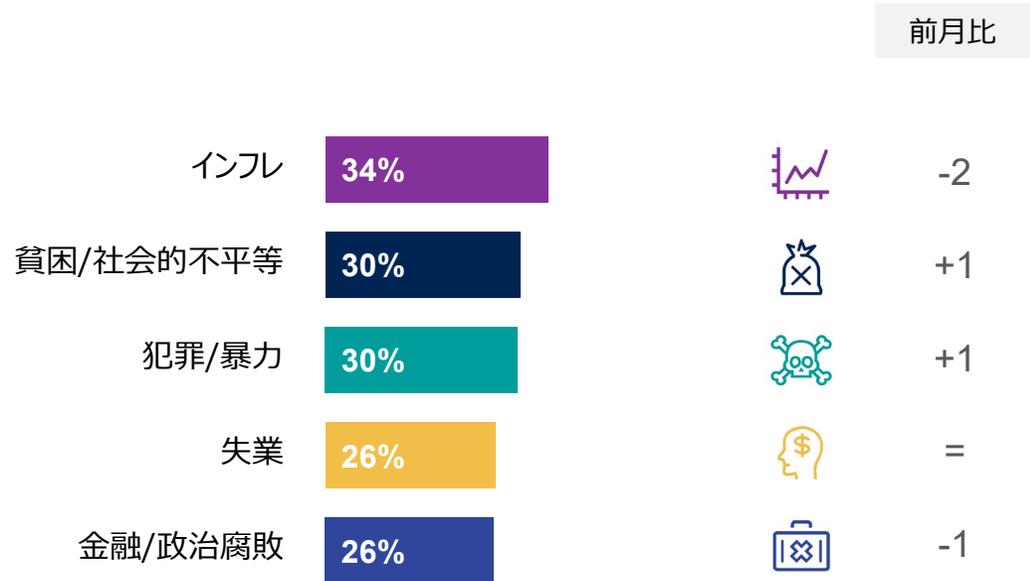
詳しくは Teodros.Gebrekal@Ipsos.comまでご連絡下さい。



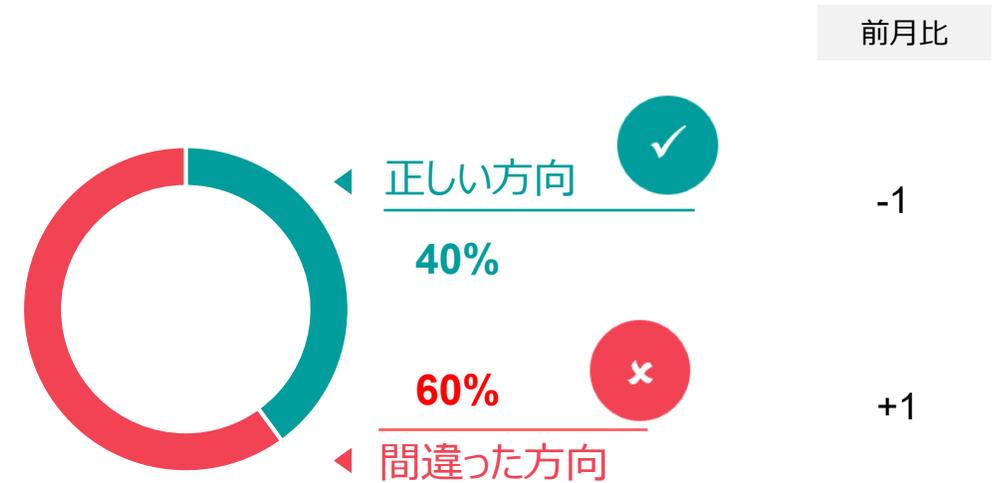
世界が懸念していること 2024年2月

インフレは23ヶ月連続で最大の懸念事項であり、29カ国の平均34%が自国の主要な問題として挙げています。トップ5のその他の懸念事項は、先月からほとんど変化がありません。自国が正しい方向に向かっていると答えた割合は1ポイント低下しています。

Q 次のうち、自国で最も懸念されている3つは何ですか？



Q 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？



ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

3 © Ipsos | 世界が懸念していること

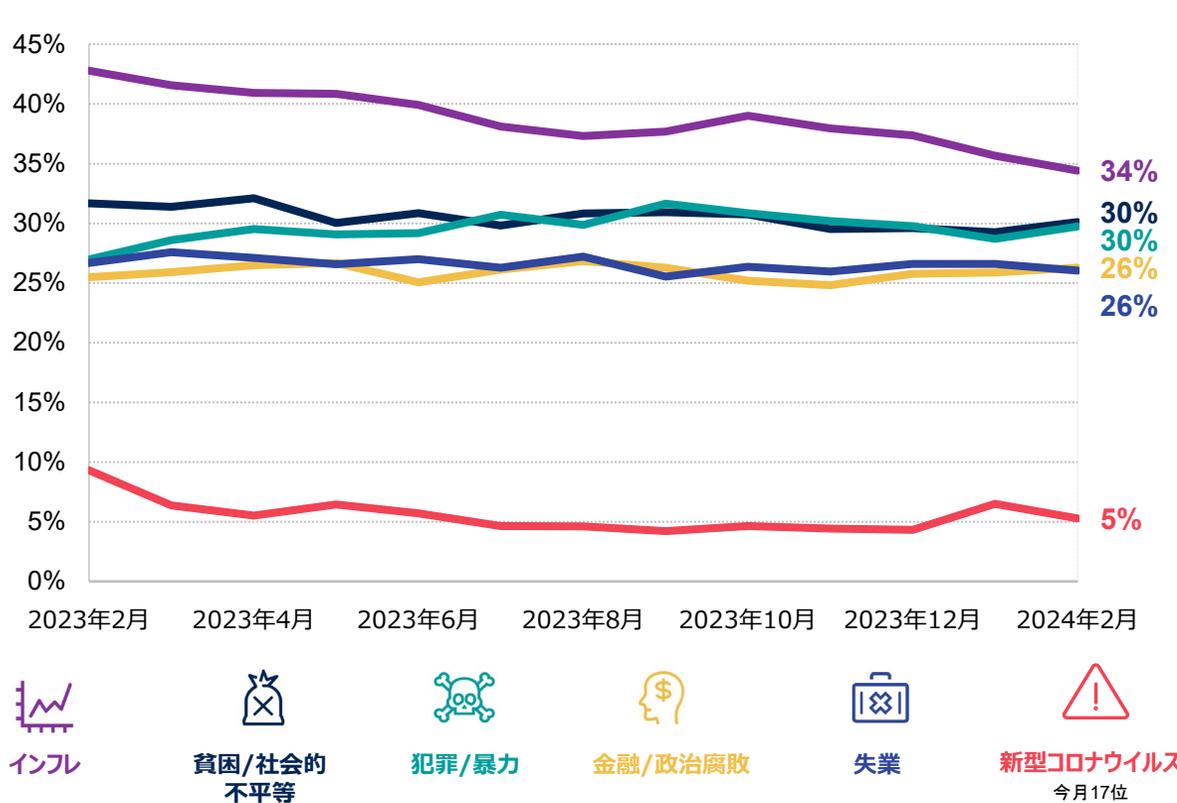
Filter: Country: World | Current Wave: Feb 24



世界が懸念していること 12か月のトレンド

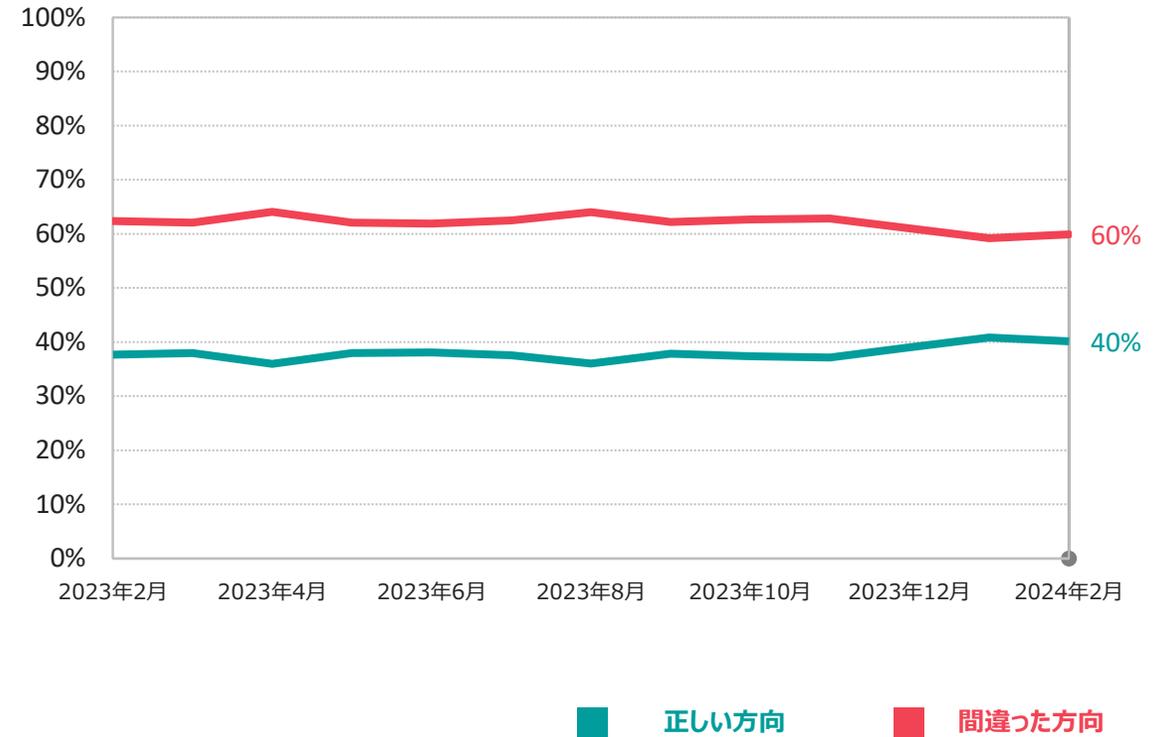
Q

次のうち、自国で最も懸念されている3つは何ですか？



Q

自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？



ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

4 © Ipsos | 世界が懸念していること

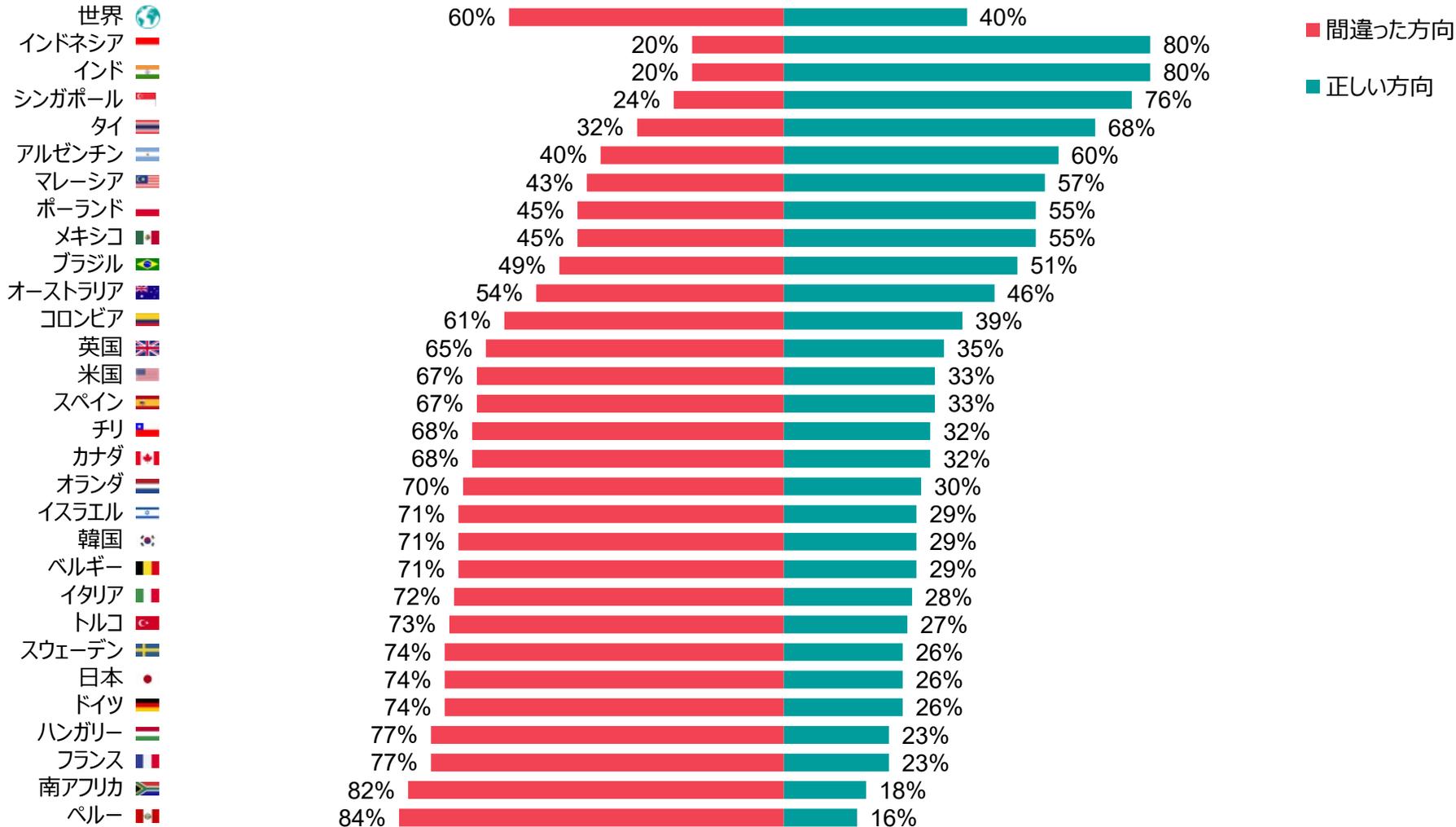
Filter: Country: World | Current Wave: Feb 24



各国が進む方向性 全29カ国

正しい方向/間違った方向 モニター

Q 自国は正しい方向に向かっていていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？ (2024年2月)



自国が正しい方向に向かっていていると答えたのは29カ国平均で40%、先月よりわずかに減少しています。

アルゼンチンとポーランドの正しい方向スコアは、選挙後2ヶ月間最高を記録した後、今月は冷え込んでいます。アルゼンチンは6%減の60%、一方、ポーランドは2%減の55%とわずかな減少にとどまっています。

その他では、シンガポールとインドが先月から正しい方向スコアの順位が入れ替わっています。シンガポール（76%）は10%の減少で3位となっています。インドは現在、インドネシアと並んで第1位で、5人に4人（80%）が自国はうまくいっていると回答しています。これは1月のスコアより10ポイント高い結果です。

ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

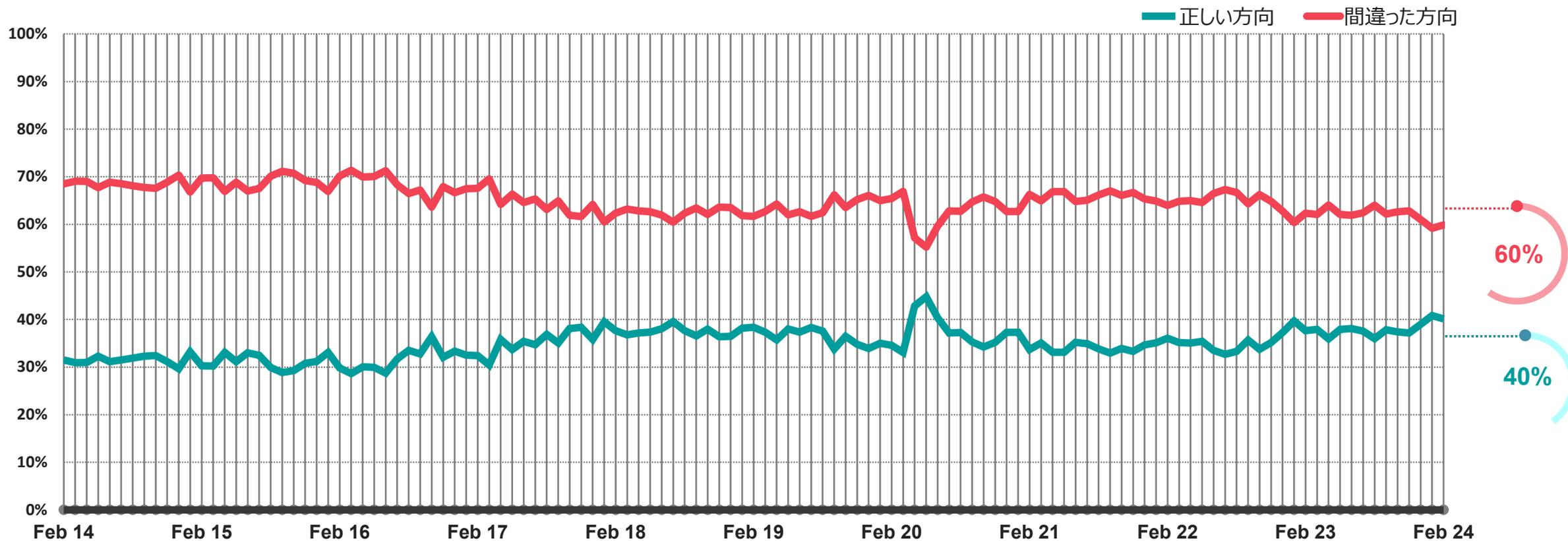
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Filter: Country: World | Current Wave: Feb 24



世界各国平均：正しい方向/間違った方向

Q 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？



ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

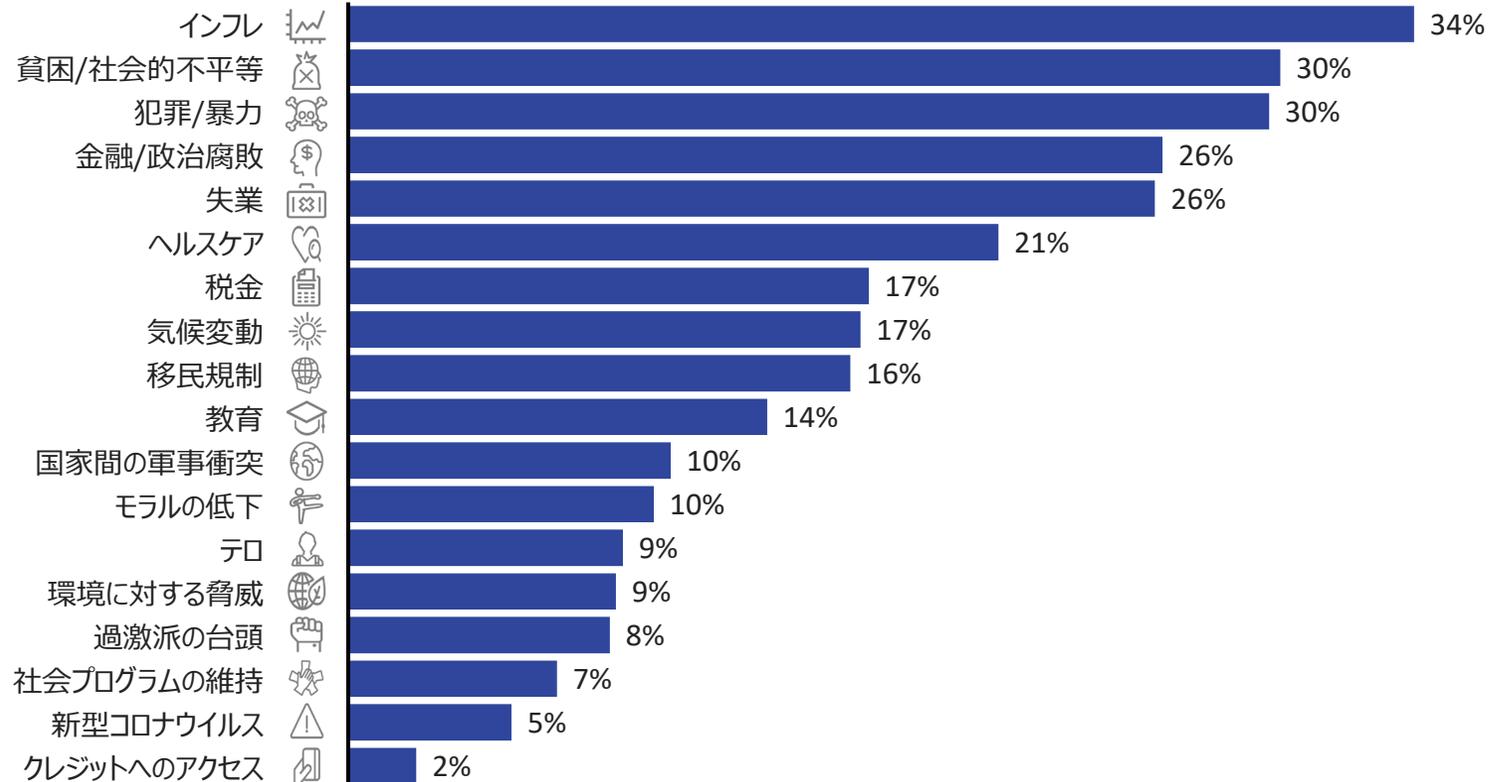
世界が懸念していること ランキング上位の懸念



世界の懸念事項：全18項目リスト

Q 次のトピックのうち、あなたの国で最も懸念されていると思うものを3つ選んでください。

2024年2月の回答 世界各国平均(%)



インフレは過去23ヶ月連続で懸念事項のトップです。今月はわずかに減少し（世界各国平均34%）、2022年5月（34%）以来の最低を記録しています。これは4ヶ月連続の減少です。昨年の今頃のインフレのスコアはピークで43%でした。

テロや国家間の軍事衝突に対する懸念は、依然として歴史的に高い水準にあります。テロは先月と変わりませんが、軍事衝突は今月もわずかに増加し、2ランクアップの11位となっています。

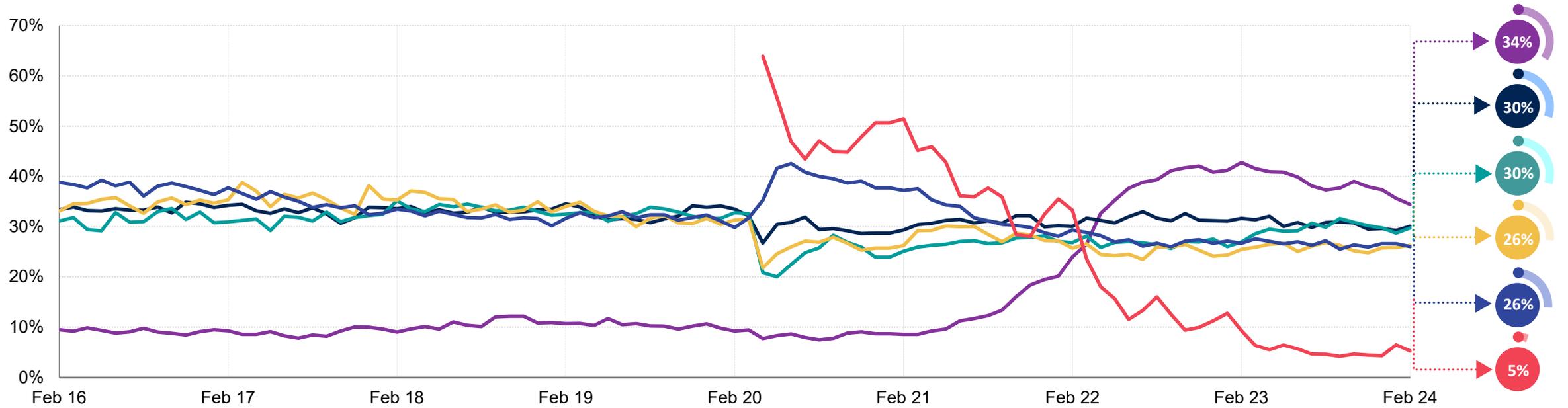
ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

世界の懸念事項：長期トレンド

Q 次のトピックのうち、あなたの国で最も懸念されていると思うものを3つ選んでください。

世界各国平均



インフレ

貧困/社会的不平等

犯罪/暴力

金融/政治腐敗

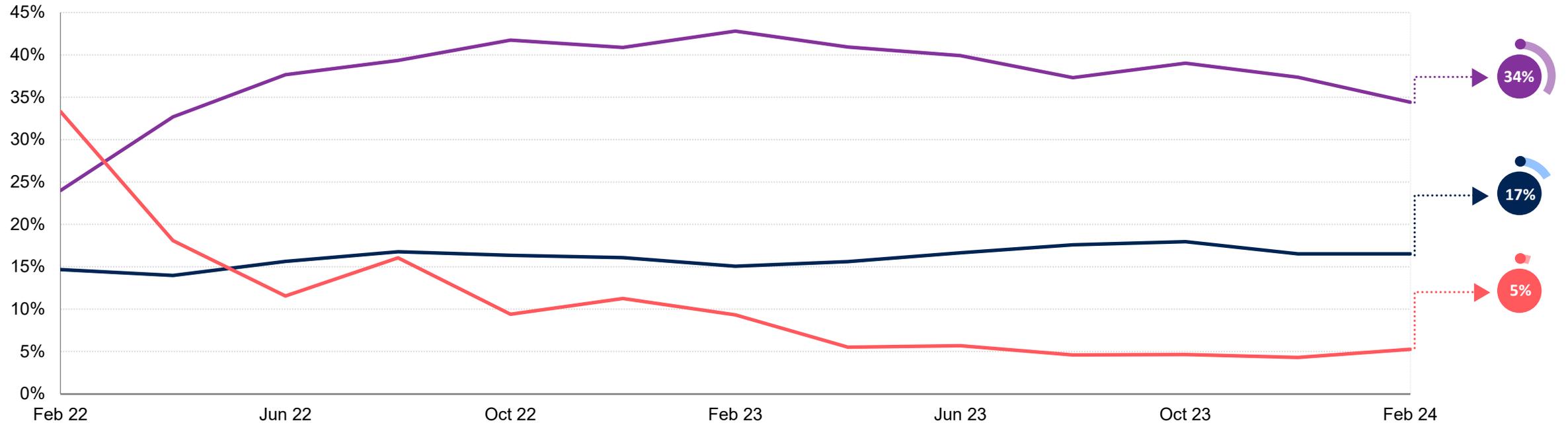
失業

新型コロナウイルス

ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

世界の懸念事項：長期トレンド (インフレ、気候変動、新型コロナウイルス)



インフレ

気候変動

新型コロナウイルス

ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル25,292人。2024年1月26日～2024年2月9日に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

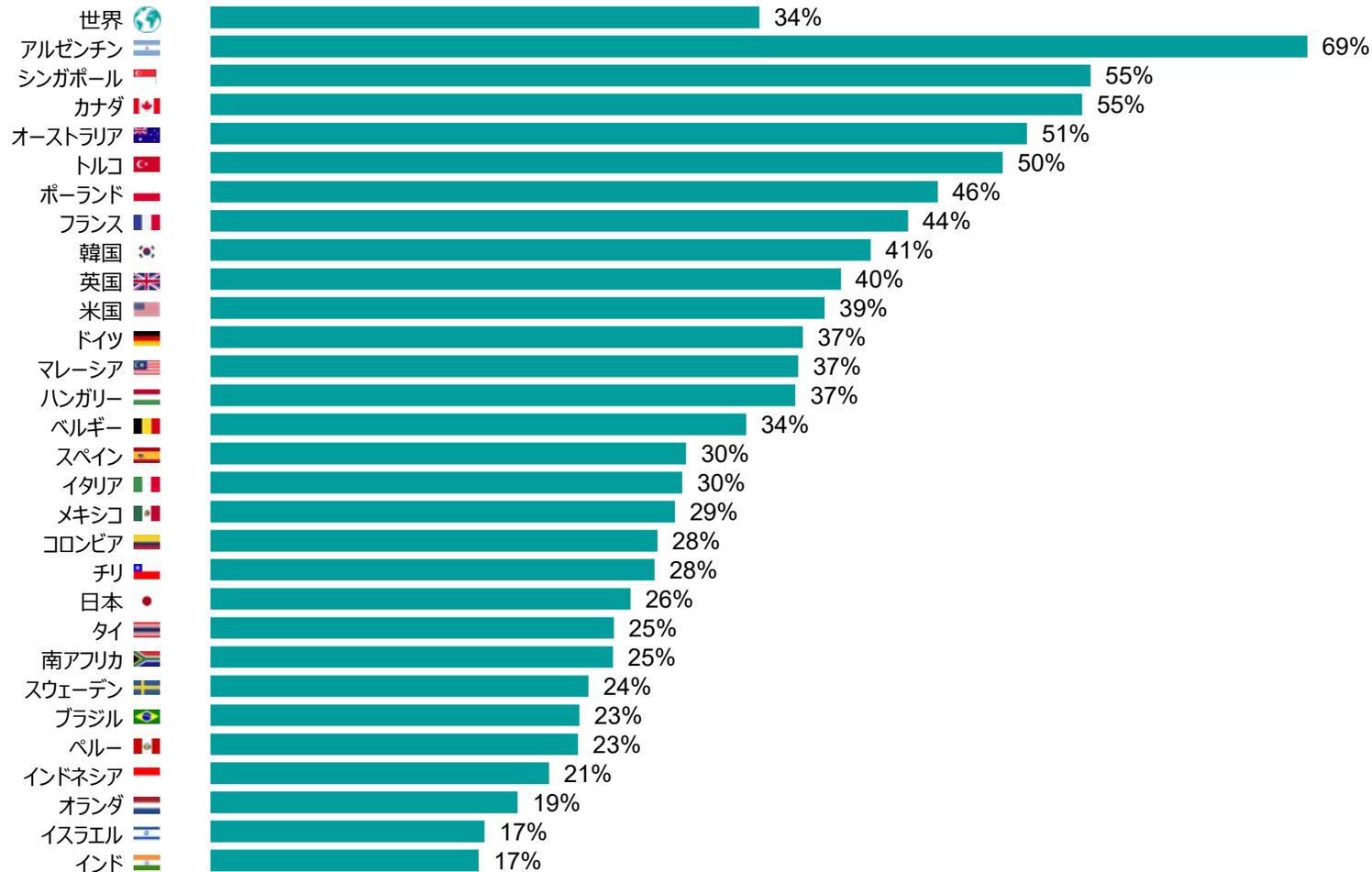
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。新型コロナウイルスは2020年4月に調査に導入。

11 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: Feb 24



1 | インフレ



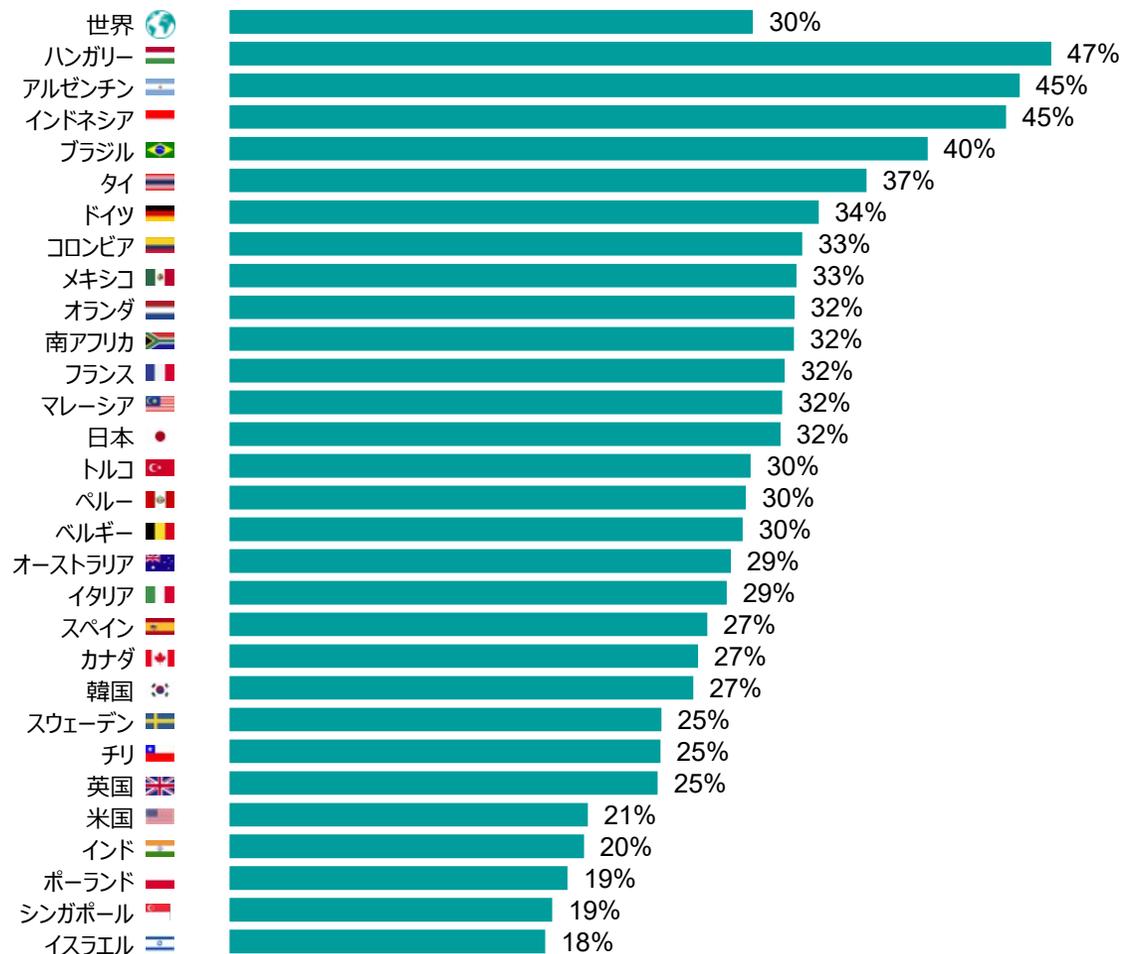
約3分の1（34%）がインフレを自国の最大の懸念事項としています。ここ4ヶ月は減少傾向にあり、2022年5月（34%）以来の最低を記録しています。昨年の今頃は、インフレを懸念する声が43%と最も高かったです。

アルゼンチン、シンガポール、カナダ、オーストラリア、トルコ、ポーランド、フランス、韓国、英国、米国、ドイツの11カ国がインフレを自国のトップの懸念事項として挙げています。

ヨーロッパの一部では、懸念レベルが上がっています。ベルギーは10%の上昇で3分の1強（34%）が不安を抱えています。英国も7ポイント増の40%、フランスも4ポイント増の44%です。

ポーランド（46%）は、2021年12月の47%以来、最も低い懸念レベルを記録しています。

2 | 貧困/社会的不平等

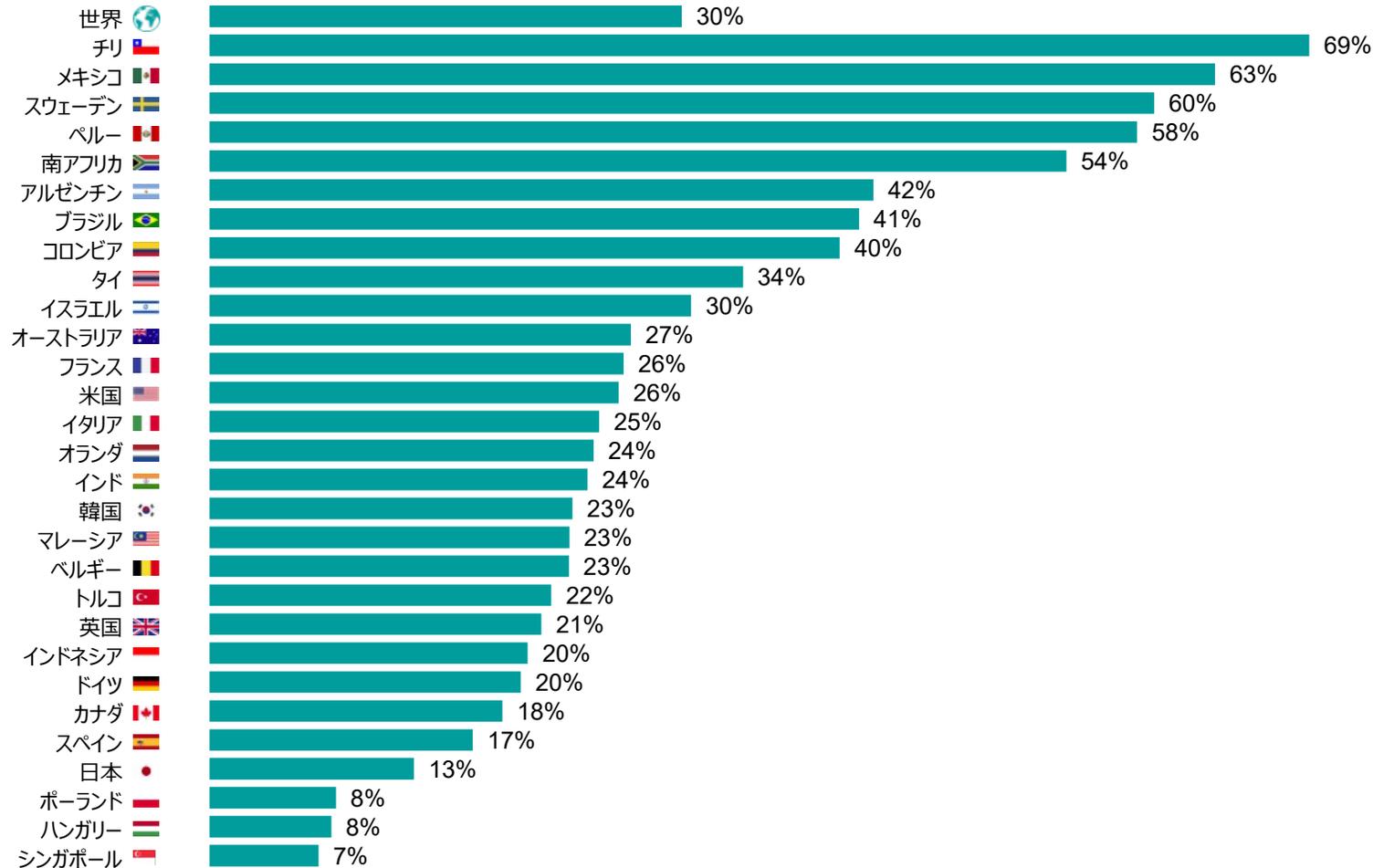


貧困/社会的不平等の回答は先月からわずかに増加しており、29カ国の平均で3人に1人（30%）が貧困/社会的不平等を懸念事項として挙げています。2番目に大きな懸念事項であるにもかかわらず、リストのどの国もこの問題を最重要課題とはしていません。

先月4位だったアルゼンチンは2位となり、5分の2以上（45%）が回答しています。これは先月より5ポイント高く、2か月前より10ポイント高い結果です。昨年の今頃は、35%でした。

その他にも、いくつかの国で懸念が高まっています。ヨーロッパでは、ハンガリー（47%）とフランス（32%）がともに6ポイント上昇しています。同様にメキシコも6ポイント増の3分の1（33%）が回答しています。

3 | 犯罪/暴力



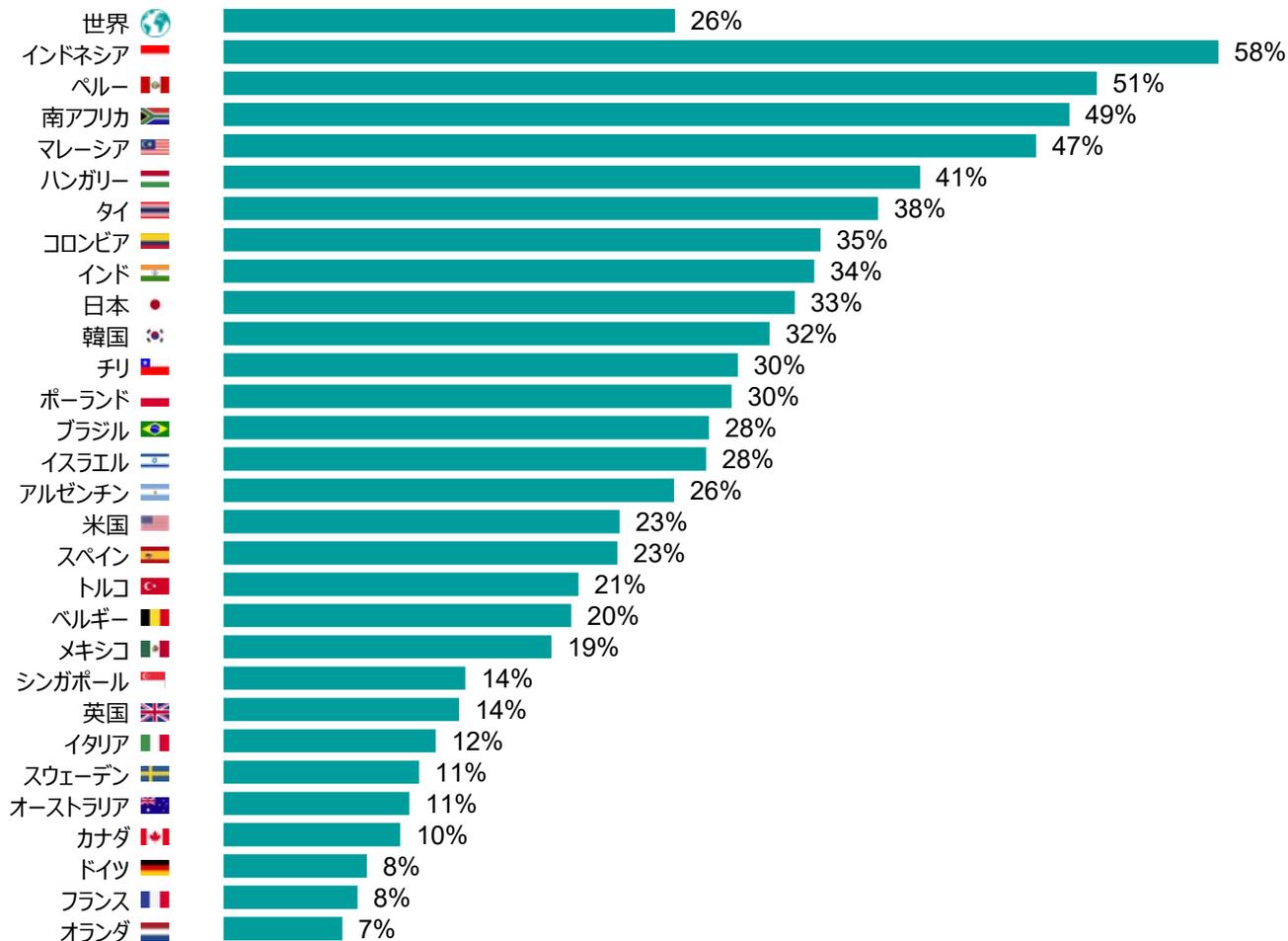
29カ国で10人に3人（30%）が自国での懸念事項として犯罪/暴力を選んでおり、先月よりわずかに増加しています。

今月は「犯罪/暴力」が自国のトップの懸念事項となった国が1カ国増え、合計6カ国となっています。エクアドルが1月にテロ組織との闘いを宣言した後、対象のラテンアメリカ6カ国のうち5カ国が、これを自国トップの懸念事項としています。

チリでは10人に7人（69%）が犯罪/暴力を回答しており、1月より5ポイント増加しています。これは、過去の調査においてチリの過去最高レベルです。

メキシコの懸念レベル（63%）は今月8ポイント上昇し、相対的に高まっています。スウェーデンの懸念も依然として高く、7%増の60%を記録しています。

4 | 金融/政治腐敗

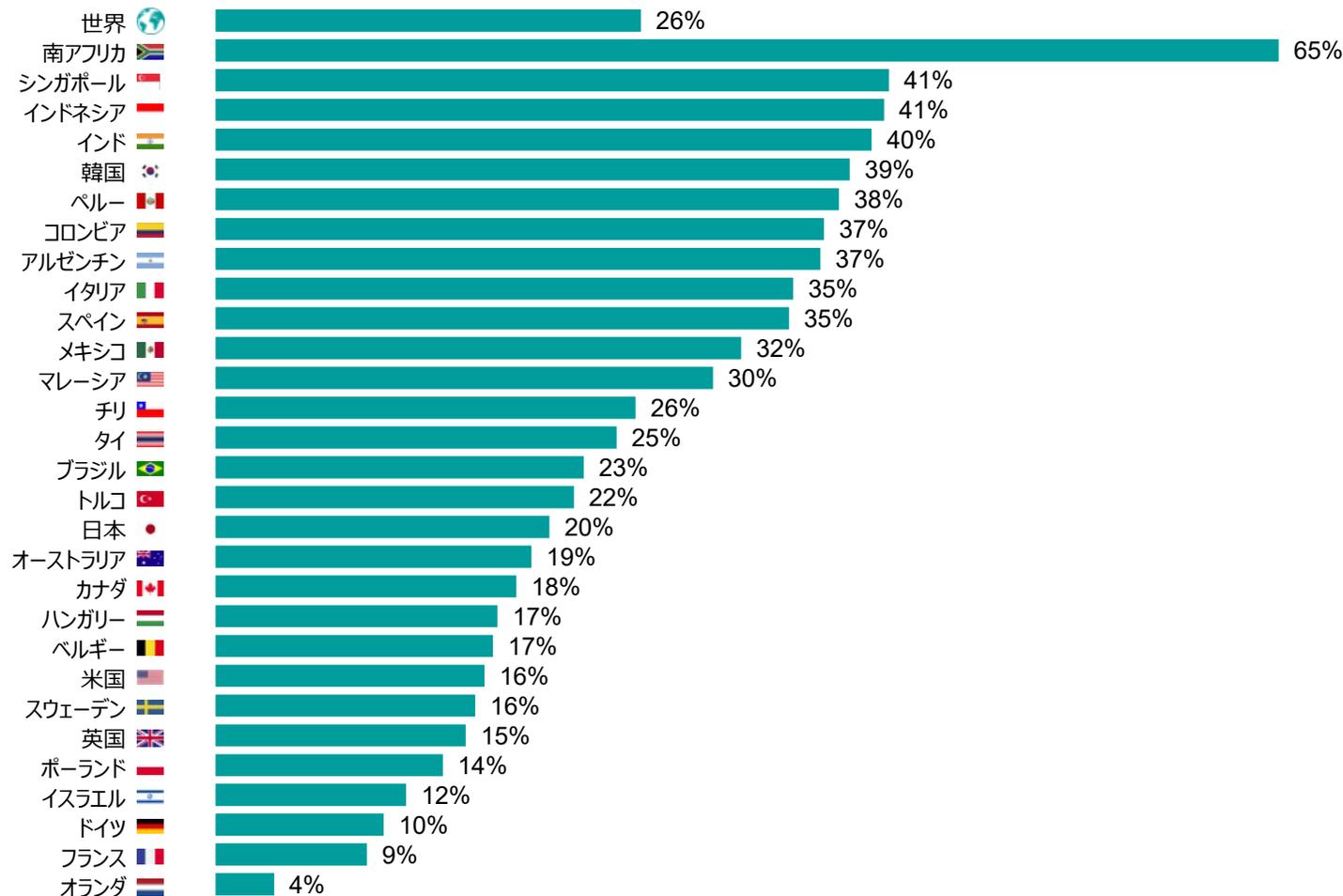


金融/政治腐敗は、29カ国で4人に1人（26%）が懸念事項として選択し、「世界が懸念していること」調査で4番目に大きな懸念となっています。

4カ国が今月金融/政治腐敗を自国の最大懸念事項として挙げています。インドネシア（58%）は変化がありませんが、マレーシア（47%）は4ポイント増、タイ（38%）と日本（33%）は今月、それぞれ5ポイントと4ポイントの減少となっています。

今月最も大きな変化を経験したのはインドで、インド人の3分の1（34%）が懸念を抱いています。これは1月より14ポイント高い結果です。

5 | 失業



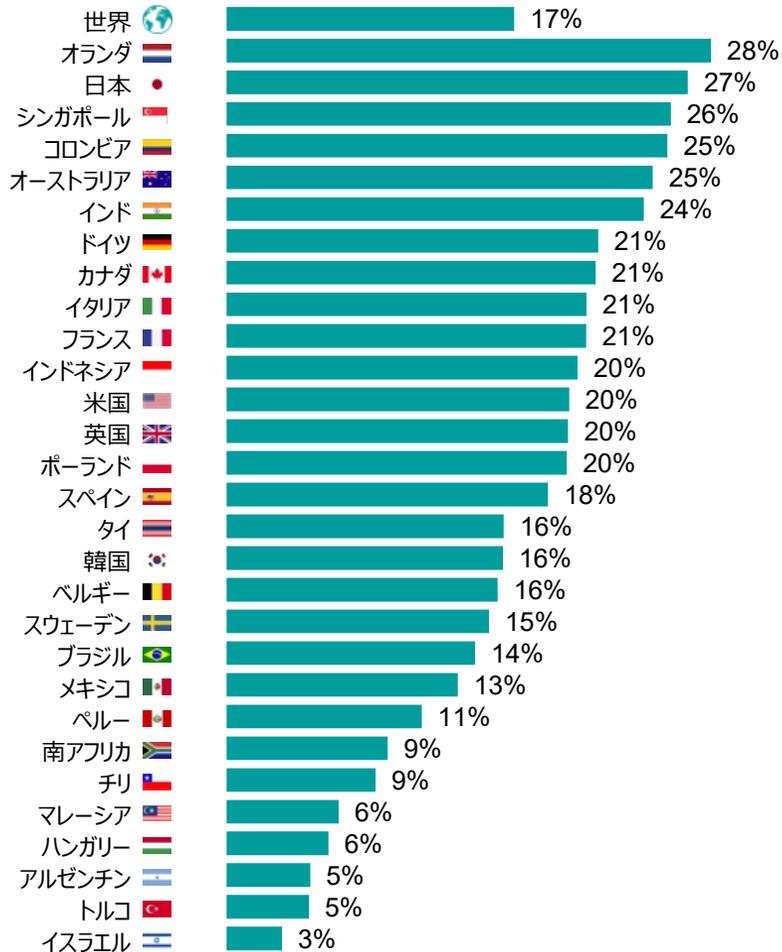
29カ国で4人に1人強（26%）が、2月の懸念事項のひとつに失業を選んでいますが、先月よりわずかに減少しています。

南アフリカ（65%）については、懸念が依然として高く、今月はわずかに増加しています。

失業は現在、インフレを抜いてインドの最大の懸念事項となっており、2ポイント上昇して5分の2（40%）に達しています。しかし、過去と比較すると、これは比較的普通の水準と言えます。昨年の今頃は45%でした。

イタリアとスペインはともに失業が最大の懸念事項で、3分の1強（35%）が懸念を抱いています。これは長期的な傾向から見ると比較的低いです。イタリアのピークは69%（2016年12月）、スペインは74%（2016年7月）でした。

8 | 気候変動

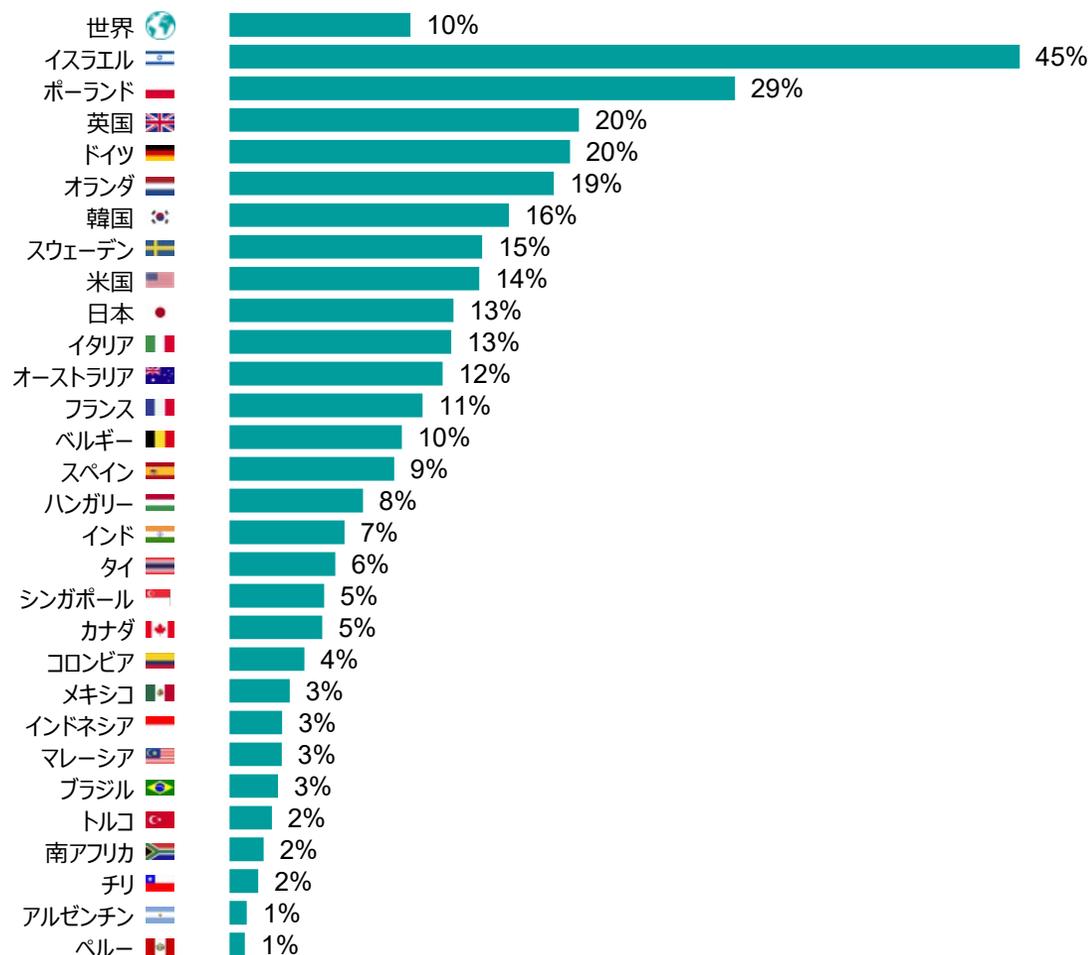


気候変動を懸念事項として挙げているのは17%で、先月よりわずかに増加しています。

最も不安を感じているのはオランダで、先月から変わらず、10人に3人近く（28%）が回答しています。

一方、コロンビアは1月から大きく変化し、16ポイント上昇し、過去最高の4分の1（25%）が回答しています。これは2021年3月にコロンビアでの調査を開始して以来、最も高い水準です。

11 | 国家間の軍事衝突

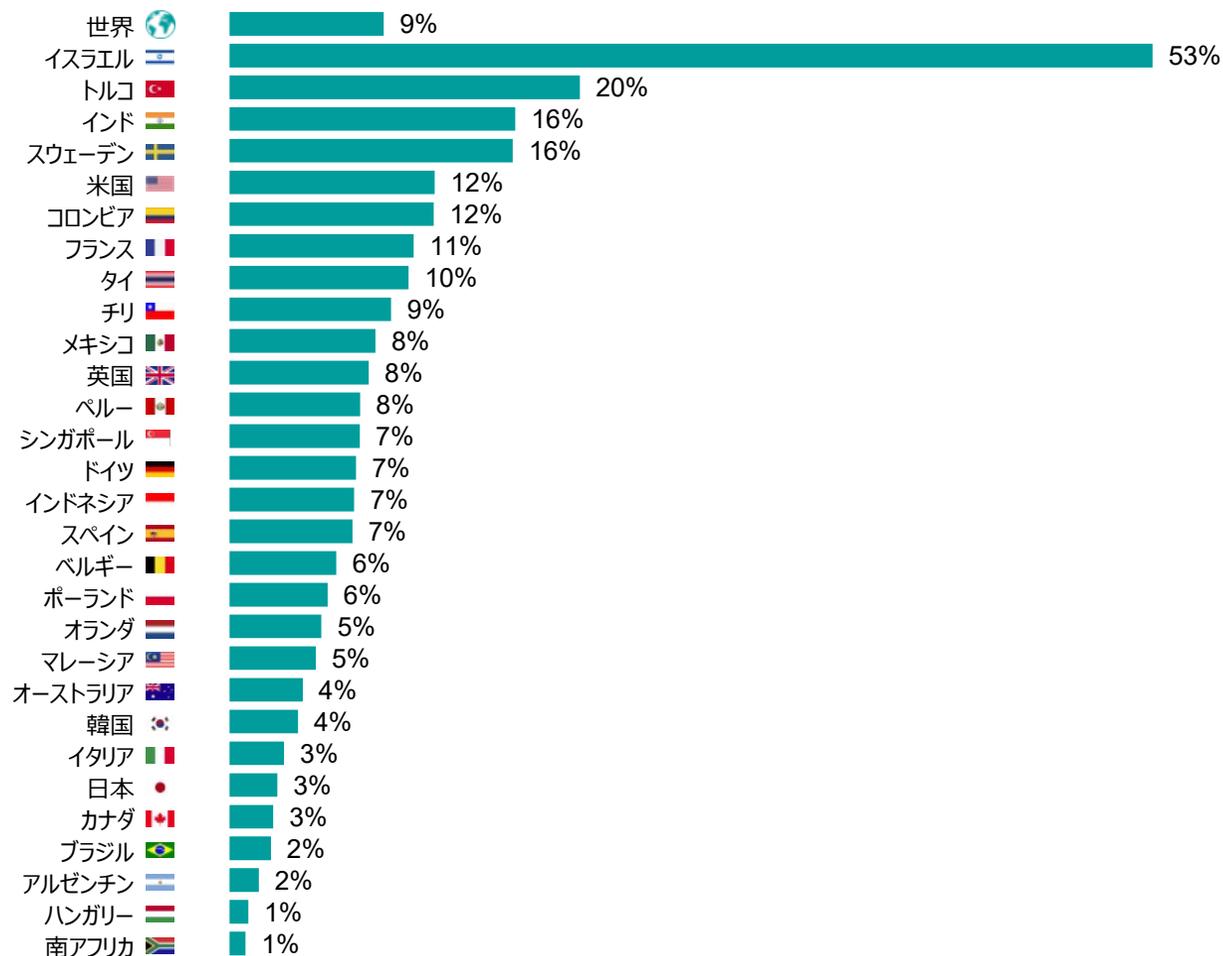


国家間の軍事衝突は、回答がわずかに増加したため、今月は世界の懸念事項リストで13位から11位へと順位を上げています。今やテロよりも上位となっています。

イスラエルの懸念レベルは依然として高く、先月から上昇しています。今月は4ポイント増の45%が回答しています。

ロシアによるウクライナ侵攻から2月24日で2年を迎えます。ヨーロッパ全体で、懸念レベルが高まっています。特筆すべきこととして、英国（20%）は11ポイント上昇しています。オランダ（19%）は8ポイント増、ポーランド（29%）は6ポイント増、ドイツ（20%）は5ポイント増、フランス（11%）は4ポイント増となっています。

13 | テロ

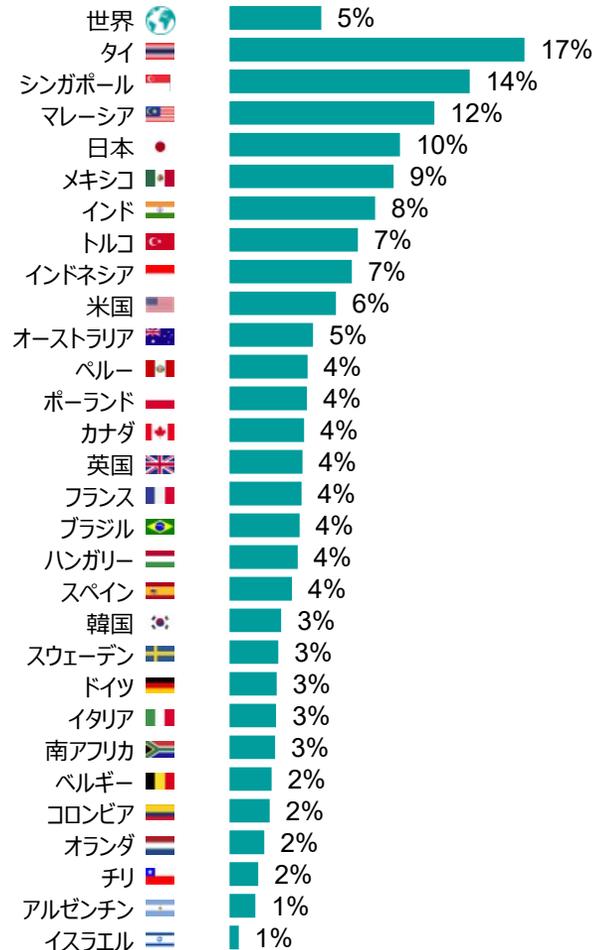


テロは世界の懸念事項の第13位にランクされています。29カ国で9%が課題として選択し、順位は1つ下がっています。

最も懸念しているのはイスラエルで、53%が自国に影響する重要な問題のひとつだと答えています。10月7日の攻撃以来、イスラエルの最大の懸念事項となっています。懸念レベルは今月5ポイント低下し、これで2ヶ月目となっています。2023年12月が最高で、このときは64%でした。

その他でも、懸念レベルの低下が見られます。フランスでは、10人に1人強（11%）が回答し、7ポイント低下しています。コロンビア（12%）は4ポイント減、オランダ（5%）は3ポイント減となっています。

17 | 新型コロナウイルス(COVID-19)



先月は懸念レベルが上昇したが、今月は横ばいとなっているようです。29カ国の新型コロナウイルスへの懸念は、2023年12月時点（4%）とほぼ同じ、20人に1人（5%）にわずかに減少しています。

マレーシアの懸念レベルは年初に17ポイント上昇した後、17ポイント低下しています。1月にはマレーシアが1位でしたが、現在は3位で12%が回答しています。

シンガポール（14%）とインド（8%）は今月は下落し、ともに8ポイント減少しています。

一方、タイは5ポイント増の17%でトップとなり、日本は4ポイント増の10人に1人（10%）となっています。

経済への注目

自国の経済状況

イプソスの「世界が懸念していること調査(What Worries the World)」と並び、毎月実施されている「世界消費者信頼感調査」は、29カ国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

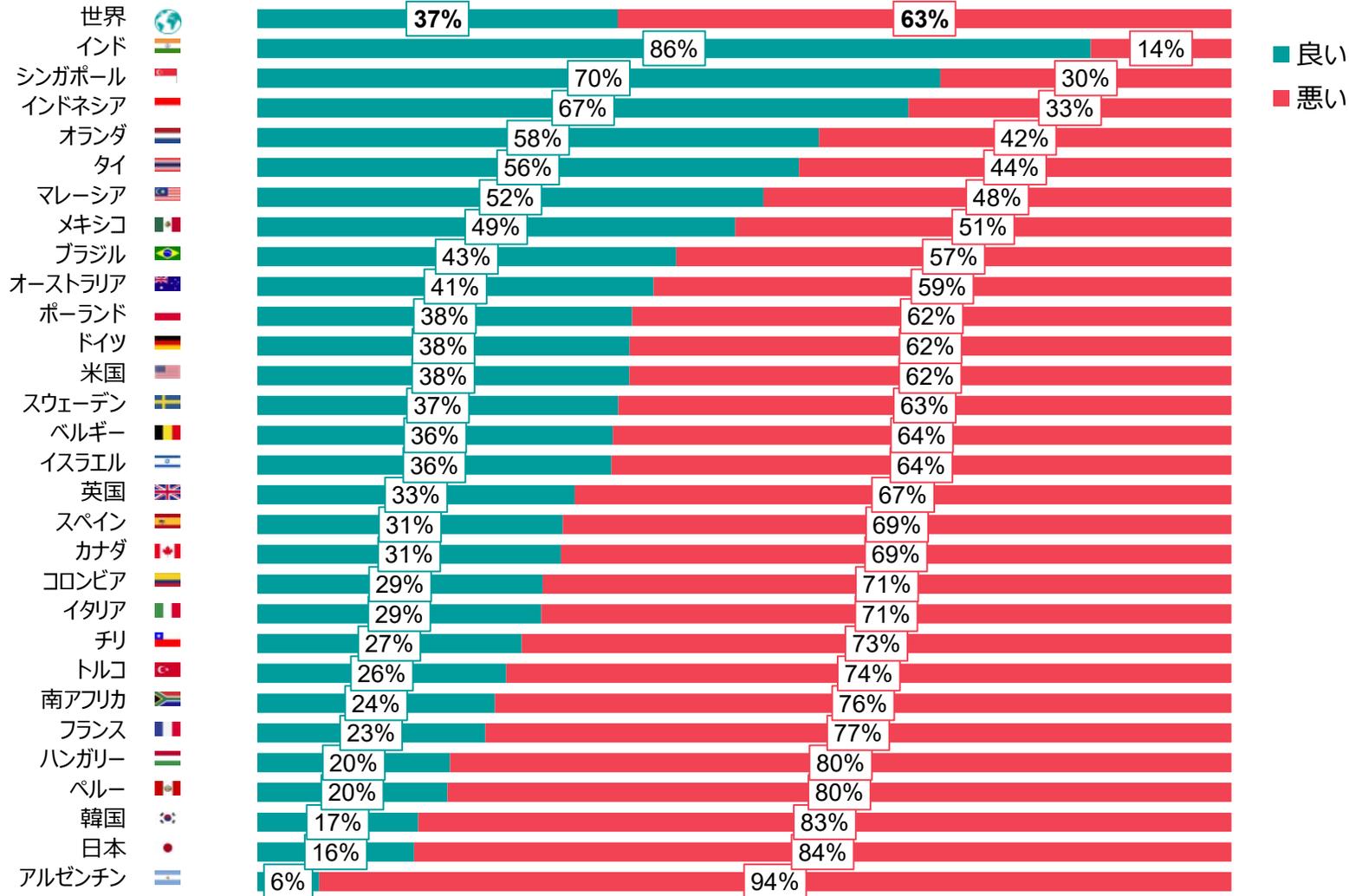
詳しくは Teodros.Gebrekal@Ipsos.com までお問い合わせください。



現在の経済状況

経済に関する認識の詳細については、[イプソスグローバル消費者信頼感調査](#)をご確認ください。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？



世界平均で、自国の現在の経済状況を「良い」とする人は37%で、先月より1ポイント減少しています。

今月上昇したのは、スウェーデン（8ポイント増）、インド（7ポイント増）、インドネシア（4ポイント増）です。タイの「良い」経済スコアが3ポイント上昇し、56%と過去最高を記録しています。

一方、シンガポールとベルギーは前月比9ポイント減、オーストラリアとフランスは同7ポイント減となっています。

アルゼンチンはわずか6%で最下位にとどまっています。アルゼンチンの「良い」経済スコアが10%を下回ってから今月で2年になります。

一方、日本も順位は低いですが、3ポイント上昇し、2020年3月以降で最高の「良い」経済スコアを記録しています。

現在の経済状況：アルゼンチン

2024年2月、アルゼンチンの「良い」経済スコアが10%を下回って2年が経過する。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：アルゼンチンの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：オーストラリア

今月は7ポイントの減少で、オーストラリアは2020年のパンデミック最盛期を除いて最低の「良い」経済スコアを記録している。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：オーストラリアの16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

25 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: Feb 24



現在の経済状況：ドイツ

ドイツの「良い」経済スコアは、2023年9月に過去最低を記録して以来、なかなか回復しない（36%）。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）



ベース：ドイツの16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：インド

今月のインドの「良い」経済スコアは、2016年11月以来最高となっている。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



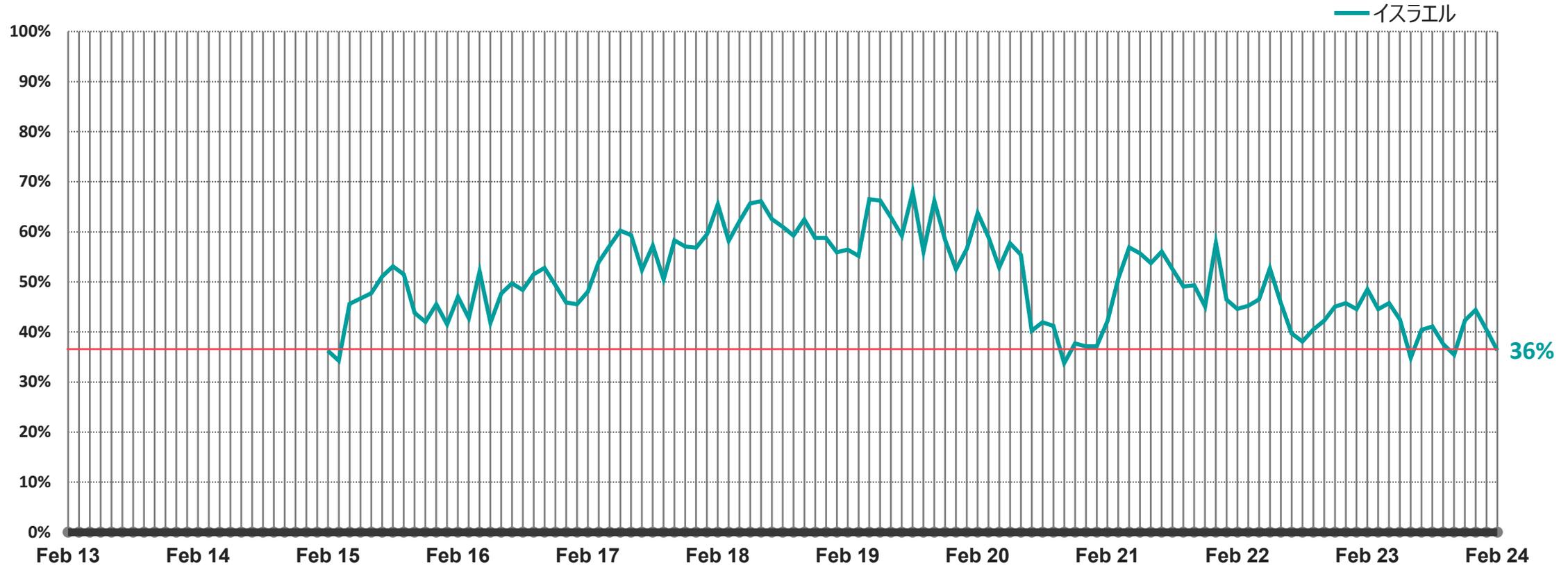
ベース：インドの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：イスラエル

イスラエルの「良い」経済スコアは現在、過去最低の34%（2020年10月と2015年3月）をわずか2ポイント上回るにとどまっている。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）



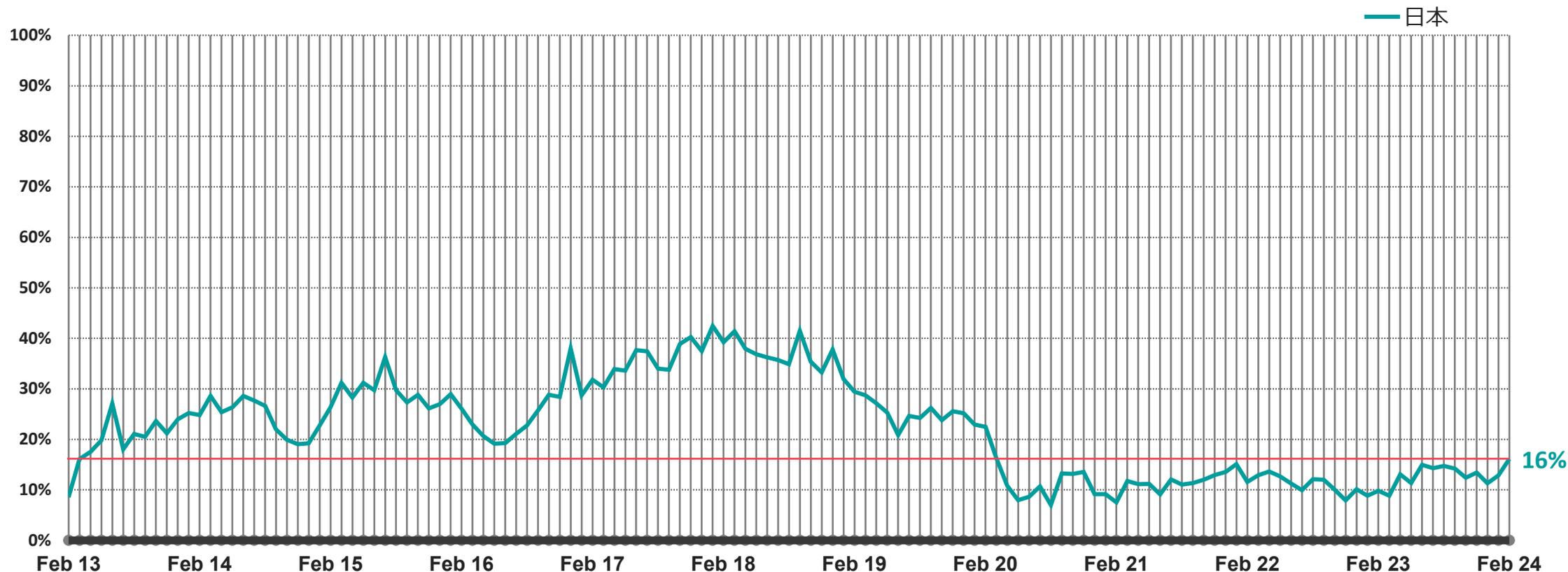
ベース：イスラエルの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：日本

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）

日本は依然として調査対象国の中で2番目に悲観的な国だが、今月は2020年3月（同じく16%）以降で最も高い「良い」経済スコアを記録している。



ベース：日本の16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29 © Ipsos | 世界が懸念していること

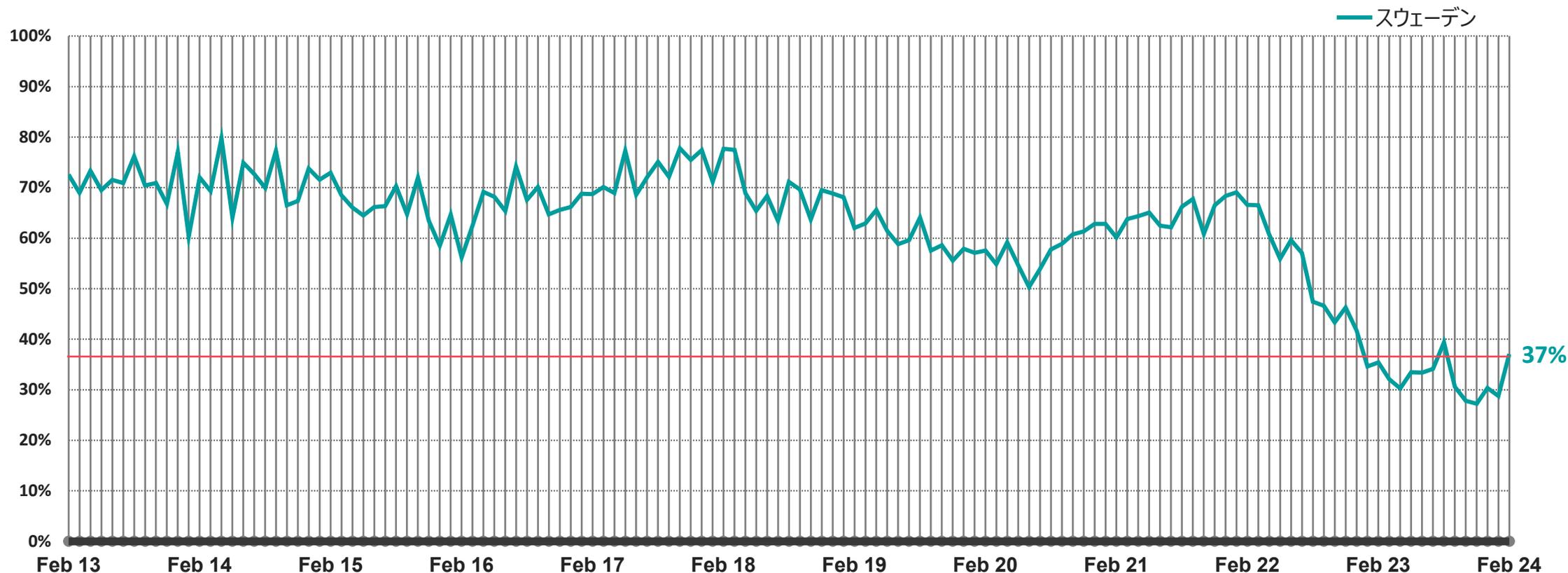
Filter: Country: World | Current Wave: Feb 24



現在の経済状況：スウェーデン

スウェーデンは「良い」経済スコアを前月比で最大に伸ばしている。しかしこれは2年前のスコアを大幅に下回っている。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：スウェーデンの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

調査手法

この29カ国のグローバルアドバイザー調査は、2024年1月26日から2024年2月9日にかけて、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、インドネシアとタイの20～74歳、シンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳の成人25,292人を対象に、イプソスのオンライン調査プラットフォームで実施された。

「世界各国平均」は、調査を実施したすべての国の平均値である。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、総合的な結果を示すものではない。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、イスラエル、日本、メキシコ、スペイン、スウェーデン、米国の各1000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インド、インドネシア、マレーシア、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各500人以上からなる。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、その国の75歳未満の一般人口を代表しているとみなすことができる。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口に比べて、より都市部に住み、教育水準が高く、裕福である。これらの市場の調査結果は、人口のうち、より「コネクテッド」な層の意見を反映していると言えるだろう。

人口統計のバランスをとり、サンプル構成が最新の国勢調査データを反映した成人人口の構成比になるよう、ウェイト付けが行われている。

イプソスのオンライン調査の精度は、1,000人の世論調査は±3.5パーセントポイント、500人の世論調査の場合は±5.0パーセントポイントの信頼区間を用いて計算されている。イプソスの信頼区間の使用に関する詳細は、イプソスのウェブサイト参照のこと。

パーセンテージの合計が100にならない場合、または「差」が実際より+/-1多いまたは少なく見える場合は、四捨五入、複数回答、「わからない」または未回答の除外による可能性がある。

本調査結果の公表は、現地の規則に従う。